

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 25 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870103490
事業所名 (ユニット名)	グループホームすみれの園 抹茶
記入者(管理者) 氏名	永見 圭
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々「その人らしい生活」を大切に、穏やかに安心してあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 「目標」 事業所での取り組みや活動内容をしっかりお伝えできるようにする。 「取り組み」 毎月の家族への手紙の中に、事業所での取り組み、活動内容を記入し活動のわかる写真を送付している。コロナが収束していなかった為、家族と一緒に参加できる行事は行えていなかったが、第三回(9月)の運営推進会議から現地開催で行い家族1名の参加があった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市内中心部から少し離れた郊外の緑豊かな住宅街の中にある事業所は、開設から20年が経過し、数年前に隣地に法人内の他のグループホームが建設されたこともあり、近隣住民から認識されている。建物内は清潔に掃除され、換気も行き届き、不快な古臭さや音などは感じられない継続した管理が行われている。日々の生活の中で、利用者から思いや意見などを聞くほか、定期的に家族から意向を確認し、利用者の置かれている状況を把握した上で、3か月に1回程度の介護計画の更新や見直しを行うなど、利用者の視点考えたこまめな支援が行われている。新たに、歯科衛生士に訪問してもらうようになり、利用者の口腔衛生に取り組む活動が開始されるとともに、職員による手作りの食事が提供され、口から美味しく食べながら、健康で利用者が生活が送れるように取り組んでいる。また、コロナ禍の感染対策が続き、外出や面会などの様々な制限が設けられていたが、5類移行に伴い制限が徐々に緩和され、予防策を講じながら、少しずつ外出支援などを再開するとともに、運営推進会議も書面から、集合形式の会議開催にこぎつけるなど、徐々に外部との関係や繋がりが戻ってきている。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	見学や入居時にご本人、ご家族の思いを確認している。	◎	/	◎	入居時のほか、3か月に1回の介護計画の更新時には、利用者や家族から、思いや意向などの確認をしている。日々の生活の中でも、利用者から希望や意向を聞くとともに、家族から、病院受診の同行の来訪時のほか、電話連絡時を活用して、意向を聞くようにしている。中には、意思の疎通が難しい利用者もおり、表情等を観察したり、家族から情報を聞いたりするなど、思いを推し量るよう努めている。聞き取った情報は、介護記録のほか、アセスメントシートに情報を記載し、職員間で共有をしている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情やしぐさから汲みとるようにしている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族が来所したときや電話連絡した時にお話している。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	会話の内容や感情等も記録するようにしている。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者の思いを確認しながら職員間で話し合っている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	面談時や入居時に本人、家族から生活歴や習慣等を確認している。	/	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、アセスメントシートを活用して、これまでの暮らしや習慣などの情報の聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者のほか、居宅介護支援事業所の介護支援専門員等から、情報を聞くこともある。さらに、入居後にも、日々の会話の中で、利用者から情報を聞くことも多く、こまめに介護記録等に記録を残し、職員間で共有をしている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	会話やケアの中で一人ひとりの現状を把握するようにしている。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	一人ひとりの生活のリズムを把握し自由に過ごしていただくようにしている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者の視点で希望に沿った生活が出来ているか話し合っている。	/	/	○	アセスメントシートの情報のほか、事前に関して把握した情報を取りまとめ、担当者会議の中で、チーム体制で検討をしている。また、家族から、受診時の医療的な情報も聞き、検討の材料にも活用している。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	課題を明らかにしご家族とも話し合っている。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向を取り入れるようにしている。	/	/	/	事前に、利用者や家族から意見や意向を聞くほか、医師や看護師等の関係者から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。利用者や家族から出された意向を、職員間で意見を出し合いながら話し合い、計画に反映できるようにしている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族の意見や情報を取り入れて作成している。	◎	/	/			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思の疎通が難しい場合はご家族から聞き取りを行っている。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	コロナ禍であったためできる範囲で行っている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	記録やチェック項目の確認を行い共有している。	/	/	◎	ユニット会議や担当者会議の中で、介護計画の内容を話し合い、職員間で共有するとともに、計画やチェック表はファイルに綴じられ、職員はいつでも確認できるようになっている。計画には、生活ニーズに関する目標毎に、日々の関わり方などを計画するほか、計画に沿ったサービスの実施の有無を、日々○印を付けてチェックするなどの確認が行われている。また、こまめな支援方法のほか、利用者一人ひとりの言動を記録に残し、他の職員等が記録を見ても、利用者の様子が分かりやすいようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月、介護計画の評価を行い職員間で状況を確認している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月毎の見直しと、状態の変化等があった場合にも見直ししている。	/	/	◎	介護計画は、3か月に1回見直す機会を設けるなど、事業所では短期間で計画を見直す仕組みづくりができています。日々の申し送り時のほか、毎月の職員ミーティングやユニット会議などを活用して、利用者の現状や変化を確認するなどのモニタリングを実施している。また、状態の変化が見られた場合には、その都度計画を見直しを行い、現状に即した介護計画に変更している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月ミーティングを行い職員間で確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化に応じて本人、家族の意向を確認し新たな計画を作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎日ミーティングで話し合っている。	/	/	◎	毎月職員ミーティングやユニット会議を実施し、利用者の現状確認をするほか、職員間で情報共有や課題などの話し合いをしている。1日3回実施する申し送り時にも、緊急案件を含めて、職員間で話し合う機会を設けている。職員ミーティングなどには、より多くの職員が出席する日に開催するとともに、その日の夜勤職員のほか、参加できない職員には事前に意見を聞くことができている。また、参加していない職員には、会議録を確認してもらうほか、重要事項は口頭で伝えるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	気がついたことを話し合い意見を出し合えるようにしている。	/	/	◎	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	会議は出勤者が多い日に行うようにしており参加できなかった職員にも申し送りや会議録等で内容を共有できるようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭での申し送り以外にも重要なことは申し送りノートに記載し出勤時にノートを確認するようにしている。	◎	/	○	朝・昼・夕と1日に3回の申し送りを実施し、口頭での伝達のほか、申し送りノートを活用して、日々の情報伝達が密に行われている。また、出勤時に申し送りノートを確認してもらい、確認後に職員はサインを残すなど、情報の伝達漏れを防ぐようにしている。さらに、申し送りノートには、利用者の情報ほか、薬や治療に関すること、業務連絡などの様々な内容が記載されている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	コミュニケーションをとる中で本人の意向を把握し実施できるようにしている。	/	/	/	前日に、職員が声をかけ、着たい服を選んでもらい、起床時等に、ほとんどの利用者は自分で着替えることができる。また、利用者が行動をしようとする際には、「トイレですか、部屋ですか」などと職員は確認するとともに、様々な場面で、可能な限り利用者へ具体的に声をかけ、自己決定してもらえるような支援に取り組んでいる。さらに、日々の生活の中で、ゲームやレクリエーション、外気浴などを取り入れながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	洋服選びやレクの内容等、本人の希望を確認している。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の意思を確認してから介助に入るようにしている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日々の会話やレクリエーションから笑顔を引き出せるようにしている。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	会話の中で表情や仕草から意向を読み取るようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	内部研修を通して利用者への声のかけ方の大切さを学び実践に活かしている。	◎	○	○	法人・事業所として、「人権や虐待防止に関する指針」を整備するとともに、年2回内部研修で、人権やプライバシーなどを学び、職員の理解促進に繋げている。また、職員は利用者の気持ちを尊重し、トイレや入浴の支援の際に、他の利用者へ気付かれないように、さりげない声かけをしている。さらに、居室の入室時には、職員はノックをして、利用者へ入室の目的を伝えたとともに、入るようになっている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	プライバシーに配慮し介助を心掛けている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への入室の際はかならずノックを行っている。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報漏えい防止の為に職員への教育と入社時に誓約書をとっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	信頼関係を構築し、お互いに感謝しあえる関係を築けるようにしている。				職員は、利用者同士の性格や関係性を把握し、仲の良い利用者同士のほか、姉妹を近くにするなどの配慮の考慮をしている。認知症状の進行や、コミュニケーションの疎通状況への配慮も行われ、言い合いなどのトラブルが発生しないようにしている。また、職員は、利用者や職員がお互いに感謝し合えるような関係づくりに努め、手伝ってもらった場合には、職員から利用者に感謝の言葉を伝えるとともに、利用者同士で励ましの声かけや、他の利用者の下膳を手助けするなど、支え合う場面も見られる。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士のコミュニケーションの大切さを理解している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士、顔を見合えば安心できるような関係作りにも努め、関係性が良くない方向同士は職員が間に入りスムーズに交流できるようにしている。					
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがあれば職員が間に入りお互いのお話を聞きトラブル解決に努めている。					
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	面談時や面会時に、本人、家族から伺っている。					
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍であったため面会や外出に制限をかけたせいであった。					
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍であり外出はドライブ程度になっている。玄関先や庭先への散歩等はご本人の意思で出てもらっている。		△	△	○	コロナ禍が続き、感染予防の観点から、外出制限が設けられ、ドライブでの外出支援に留まっていたが、天気のいい日には庭先に出て外気浴や散歩をしたり、畑に花や野菜の生育を見に行ったりするなど、少しでも気分転換を図れるよう支援している。2階ユニットにいる利用者の重度化に伴い、外出できる利用者は減ってきている。感染対策が緩和され、徐々に家族との外出のほか、2名程度の利用者と一緒に、買い物に出かけられるようになってきている。今後は、重度な利用者を含めて、玄関先などに出て、外気浴ができる機会を増やしたり、買い物やドライブと一緒に出かけたりするなど、以前のような活動的な生活の機会が、徐々に再開されることを期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ禍のため出来ない。					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修等で認知症の理解を深め、個々の状態にあったケアを心掛けている。					日課の中に、体操や風船バレーのほか、ボール投げ、塗り絵、しりとり、歌唱など、数多くのレクリエーションなどの活動の場が設けられるとともに、日常生活の生活リハビリを含め、利用者の心身機能の維持に取り組んでいる。また、トランプやカルタなど、昔から馴染みの遊びを取り入れるなど、利用者が楽しめるような支援も行われている。さらに、花植えや畑の世話などに、利用者の参加を促すこともある。活動時には、利用者自身にできることはしてもらい、職員は見守りや声かけなどの対応をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活での基本的な動作と体操やレクリエーションを取り入れ機能低下の防止、維持、向上に努めている。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	ご本人がされようとしている事は見守りを行い必要時には声掛け、介助を行うようにしている。		◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりの好きな事や有する能力を把握し、その方にあった支援を行うようにしている。					敷地内にある畑で、さつまいもなどの野菜の世話や柿などの果実を収穫するのほか、洗濯物たたみや食器拭き、調理の下ごしらえを手伝うなど、職員は一人ひとりの利用者に合わせて、好きなことや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。また、レクリエーションの際に、掛け声や手伝いなどの出番を担う利用者もいる。役割や出番を担ってもらい、利用者に楽しみや張り合いのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	お手伝いやレクリエーションでの役割、庭先でのお花の手入れや野菜の栽培等その方に合った役割ができるように支援している。		○	○	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	着替え等の準備時には本人の意向を尊重し選択できるようにしている。				起床時等に、自分で服を選び、着替えや身だしなみを整える利用者もいる。また、職員は利用者に声をかけ、衣服を直したり、くしを渡して鏡の前で、髪などの整えてもらったりするなど、身近なおしゃれや身だしなみなどにも、力を入れた支援にも取り組んでいる。また、入浴後に、化粧水やクリームを塗るなどの配慮も行われている。さらに、食事の際に、食べこぼしの多い利用者には、エプロンを使用して衣服が汚れないようにするほか、口の汚れなどに対して、さりげなく声をかけ、ティッシュを渡すなどの支援にも努めている。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪型や服の好みは本人や家族の希望を聞きそれに応じて支援している。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	スタッフが選択肢を提案することで自己決定のサポートをしている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	本人の好みや季節に合った服装の選択ができるようにしている。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなり、さげすまれている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声掛けし整容している。		◎	○		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人、家族の意向に沿って訪問理容を活用したりコロナ禍以前は家族の協力のもと馴染みの理美容店に行けるようにしていた。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人の好きな服装や髪形を把握できるようご家族からも情報を聞くようにしている。					○
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事のプロセスや意味を理解して支援している。				利用者から好みのメニューを聞くほか、旬の食材を取り入れ、昼と夜、前日との関係性やバランスを考慮しながら、各ユニットで別々の献立を作成している。食材は、職員が週3回ネット注文を行い、届けられた食材を使用して、利用者調理の下ごしらえや食器拭きなどを手伝ってもらいながら、リビングとダイニングを兼ねる場所にあるキッチンで、職員が交替で手作りの食事を提供している。誕生日には、利用者の好みのメニューを提供するとともに、毎月1日には、うなぎを食材として提供し、月替わりを感じてもらおう工夫を行うなど、利用者にも喜ばれている。中には、調理師の免許を持つ職員がおり、献立を考える際にアドバイスももらうほか、職員間で意見を出し合いながら、献立を検討することができている。茶碗と湯のみ、お箸などの食器類は、利用者自身の馴染みの物を持参して使用してもらうほか、滑りにくく加工のされたお盆を活用し、自分のペースで食事を楽しんでもらえるよう工夫をしている。食事の際には、職員は見守りやサポートを優先し、一緒に食事を摂ることまではできていない。利用者は、食事ができあがるまで、匂いや音を感じながら、待ち遠しくなるような雰囲気づくりを行い、心地良く過ごしている。また、重度の利用者は、自分の居室で食事を摂ることもあり、職員は役割分担をしながら対応している。さらに、利用者の状態に合わせて、刻みやミキサー食、お粥など、一人ひとりの食の形態に対応するほか、栄養補助食品も活用している。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	さやいんげんのすじ取りやゆで卵の皮むき等簡単なお手伝いをお願いしている。					○
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	自信や達成感を感じていただけるよう後片づけ等お願いしている。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	面談時にアレルギーの有無や好きなもの嫌いなものを確認するようにしている。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	○	旬の食材や果物を取り入れ季節感を出せるようにしている。					○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいそな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ひとりひとりの状態に合わせて食事形態で美味しく食べていただけるよう盛り付けている。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時に馴染みの物を持ち込んでいただくようにしている。					◎
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	職員は入居者と一緒に食事は摂っていない。一人ひとりの見守りを行い必要時にはさりげなくサポートしている。					○
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事の内容をお伝えしながら食事介助を行い、今何を食べているのかわかるようにしている。		◎			◎
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分量を記録し、一日の摂取量を確認できるようにしている。					
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事の時間や形態を個々に合わせ、声のかけ方やタイミングを工夫し摂取していただけるようにしている。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士の指導は受けていないが職員間で話し合いをし栄養の偏りがないように工夫している。					○
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日調理用具の消毒を行っている。食材は使用前に冷蔵庫から出して使用している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	必要性、重要性を理解しその方にあった口腔ケア用品を使用し口腔ケアを行っている。	/	/	/	週1回、歯科衛生士の来訪があり、指導を受けて、職員は口腔ケアの重要性を学ぶとともに、利用者の口腔内のチェックをしてもらうこともできている。毎食後に、職員は声をかけ、リビングにある洗面台で口腔ケアを実施し、必要に応じて、見守りやサポートをしている。自分で歯磨きをする以外に、利用者の状態に応じて、口腔内をティッシュで拭くほか、うがい薬を活用した口腔ケアを行うなど、歯科衛生士から様々な手法を教えてもらいながら、利用者の口腔内の清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科協会から資料をもらい参考にしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日行っており違和感や痛みがないか等、本人に確認している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	ご本人が磨き終わった後確認している。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	できるだけトイレでの排泄が出来るように努めているがその方の身体機能を考え、パットやオムツの使用をさせていただいている方もいる。	/	/	/	排泄チェック表を活用し、職員は利用者一人ひとりの排泄状況や特徴を把握している。また、チェック表は夜勤者が毎日集計して取りまとめるとともに、日々の排泄時の声かけやトイレ誘導などに活用されるなど、こまめな支援により、布パンツで過ごすことができている利用者もいる。また、多くの利用者は履くタイプの紙パンツを使用しているが、利用者の状態や排泄状況に応じて、おむつや尿取りパッドなどをうまく組み合わせて使用するなどの対応をしている。さらに、軟便剤や下剤を使用している利用者もいるが便秘対策にも努め、食物繊維を多く摂取したり、多めの水分補給を促したり、運動に参加してもらうなど、利用者の心地良い排便を意識した取り組みも行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘のメカニズムについて理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄の時間帯や量を記録してパターンを把握できるようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	その方の状態に応じた排泄方法を選択し行っている。	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	ミーティングや会議で意見を出し合い改善できるようにしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	行動パターンから排泄の兆候を察知し早めの声かけを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者の状態に合わせてその都度対応している。変更がある場合は家族に説明し合意を得ている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	ミーティングで情報交換し使用するパットなどを考慮している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分をしっかり摂ってもらうたり体操等の運動にお誘いし便秘予防に努めている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	その日の体調や本人が希望されなかったら翌日に入浴のお声掛けをしている。	/	◎	○	利用者の思いを尊重しながら、入浴を拒む利用者には、曜日や時間帯を変更するほか、声かけなどの工夫をすることで、週2回利用者は入浴することができている。事業所では、職員が一人体制で、利用者一人の入浴支援を基本としているが、介助を要する利用者にも、一般浴槽の湯船に浸ることができるように、移乗介助などを複数の職員で行うなどの努力も行われている。また、利用者の希望に応じて、湯船に浸かる長さや湯の温度など、可能な範囲で、柔軟に対応をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	その方に合った会話を心掛けリラックスできるようにしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身等ご自分でできるところはやっていただき出来ないところだけお手伝いしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	原因を把握し時間をずらしたり翌日にお声掛けしたりしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には本人の様子やバイタル測定を行い入浴後は水分をとっていただくようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送りや介護記録を確認し把握するようにしている。				利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、介護記録に記載するほか、申し送りを活用して、職員間で情報を共有している。中には、眠剤などを服用している利用者もいるが、日中に運動の参加を促したり、外気浴を取り入れて、覚醒のリズムが整うようにしたりするなど、極力服薬に頼らず、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。また、夜間に起き、リビングと居室の出入りを繰り返す利用者もいるが、数日続く場合には、健康面を考慮して医師と相談し、眠剤の服用に繋がることもある。さらに、夜間の覚醒時においても、職員は利用者と一緒に過ごすほか、適切な休息の声かけをしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中、身体を動かす等のレクを取り入れたり、庭先への散歩や外気浴等でリズムが取れるようにしている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	訪問診療時、主治医に日中の過ごし方等を報告し相談している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	リビングから居室への移動は自由にしていただき、本人の様子を見ながら休息のお声掛けをしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	要望があれば電話でお話できるようにしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	本人の希望がなければ特に電話や手紙を促してはいない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族の依頼、了解があれば電話している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は本人にお渡しし、要望があれば一緒にお読みしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族には理解、協力してもらっているが電話や手紙のお願いはしていない				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているがトラブル防止の為に一部の入居者を除き基本的には職員が管理している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	コロナ禍以前には一緒に買い物に行っていたが現在行っていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金をお預かりしていることを伝え買い物が見たい時には言っていたくようお声掛けしている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時にご説明している。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月領収書を送付し出納確認をさせていただいている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	既存のサービス内容はお伝えした上でその都度状況に応じて対応するようにしている。	◎		○	コロナ禍が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、利用者や家族から出されて生活上の要望には、可能な範囲で柔軟に対応をしている。徐々に、感染対策も緩和され、家族との外出支援のほか、利用者との買い物支援なども可能となっている。また、利用者や家族の状況に応じて、職員は病院受診の同行支援を行うほか、携帯電話の操作の手伝いなどの対応もしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関の周りにお花を置き明るい雰囲気作りや、不必要な物は置かないようにしている。	◎	○	○	事業所は閑静な住宅街の中に立地し、一般的な住居に近い外観となっている。敷地内には小さな畑があり、さつまいもなどの野菜が植えられている。また、玄関内には3つのイスが置かれ、家族との面会に備えている。さらに、玄関から階段に繋がる場所にはウエルカムボードが置かれ、入りやすい雰囲気が感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない狭風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	共用スペースには生活に必要な物品が置かれている。壁には思い出の写真や季節に合った飾りつけをしている。	○	○	○	日中に、利用者はリビングで、体操やレクリエーションなどを行いながら、和やかに過ごすことができる。昼食後の1時間程度は、自分の居室でゆっくりと過ごす利用者が多いが、その後はリビングに集まり、午後の活動をしている。また、廊下には季節の飾り付けのほか、行事や誕生日などの写真が数多く飾られ、利用者同士や職員と一緒に写真を見ながら、会話がはずむことも多い。さらに、共用空間は清潔に掃除され、換気も行き届き、不快な臭いや音などは感じられない。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、空気清浄機を設置している。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花や野菜を植えお世話していただいている。毎月季節に合った飾りつけをしている。						◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	状況に応じて入居者の席の変更やテーブルの位置の変更等をしている。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に思い入れのあるものや使い慣れたものを持参していただくようお願いしている。	◎		○	居室の入り口の横には、名札と顔写真を貼り、利用者が自室を認識できるように工夫している。居室には、エアコンや電動ベッド、クローゼットが備え付けられている。また、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができ、テレビや家族写真、手作りの作品を配置するなど、利用者に合わせて居心地の良い空間となっている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個々の以上手段を考慮し安全で分かりやすい動線であるよう工夫している。			○	三角の立体的にトイレの表示を行うなど、利用者に分かりやすいように工夫されている。また、リビングと廊下は一直線上に配置され、利用者が居室からリビングまでの経路が分かりやすく、安全な構造となっている。		
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞や本などは手に取れる所に置いてあるが他は必要な時にお出ししている。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	日中玄関の鍵は常に開いた状態にしている。ユニットのドアは入居者の状態と職員の人数を考慮し鍵をしている時間帯もある。外に行きたいとの希望があれば職員と一緒に出るようにしている。	×	◎	○	全ての職員は、鍵をかけることの弊害を十分に理解している。日中に、玄関やユニットの入り口は施錠をしておらず、夜間のみ防犯の観点から施錠を行い、利用者の安全を確保している。コロナ禍が続き、家族等の来訪者はインターホンでの対応が継続していることもあり、利用者家族等アンケートの結果から、鍵をかけないケアの取り組みに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、手紙を送付する際に事務連絡で周知したり、運営推進会議等を活用して、日中に玄関等の鍵をかけていないことをお知らせしたりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	鍵をかけて出られなくすることは拘束になることを理解していただいている。						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント表や病院受診ノートで確認している。						
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者の普段との違いを観察し、変化があれば介護記録への記入や申し送りで周知するようにしている。						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	何かあれば24時間いつでも相談できるようにしている。						
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に希望する医療機関を確認し訪問診療を受けられるようにしている。	◎					
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族と相談しながら適切な医療を受けられるようにしている。						
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診前後には家族に報告している。往診ノートや申し送りで情報の共有をしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には普段の状態、精神状況等の情報提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病棟の看護師や地域連携室の担当相談員と連絡を行い状況がわかるようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関の看護師に相談し主治医に伝えてもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタル測定や健康観察を行い早期発見につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	新しく出た薬は全員で情報共有し、服薬後の状態や変化等は記録し主治医に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬管理は職員が行い、服薬前に職員2名で確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	体調に変化があった場合は服用した薬の副作用の確認している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時から定期的に意向の確認をしている。				事業所では、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」と同意書を整備し、協力医が複数確保され、希望のある場合には看取り介護を実践している。年に1名程度の看取り支援の実績があり、看取り介護を経験している職員も多い。また、重度化や状態の変化が見られた場合には、医師から説明をもらうとともに、家族と職員が話し合い、方針を共有した支援が行われている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	定期的な意向の確認と本人の状態に合わせて主治医を交えたカンファレンスでの意向の確認をしている。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員一人ひとりの力量や思いを把握したうえで支援を検討している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	グループホームのできること、できないことをお伝えし理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度化した場合チームで密に連絡を取ったり話し合いの場を作って検討している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	状態の変化の伝え方を考慮し希望されることへの可能な支援を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内部研修で定期的に学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	予防対策や物品の用意はしてあるが訓練はしていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	情報を確認し対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い、マスク着用など徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	毎月、電話やお手紙で本人の状況をお伝えしている。	/	/	/	以前は、事業所のイベントなどの活動に家族が参加できる機会が設けられていたが、現在は開催を自粛しており、今後管理者は、感染状況を確認しながら、活動の再開を予定している。現在は、家族に手紙に写真を添えて近況を報告するほか、来訪時や電話連絡時を活用して、利用者の情報を伝えている。また、感染対策が緩和され、玄関スペースで家族との対面の面会を可能としている。コロナ禍が続き、家族が来訪する機会は少なかったこともあり、事業所の運営上の出来事のほか、職員の入退職や移動までは十分に報告できていないため、今後は、利用者の生活状況を伝える書類の中で、新入職員を紹介したり、担当職員の異動や退職を個別に報告したりするなど、家族に理解が得られるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ禍の為にできていなかったが今後は機会を作っていくように活動する。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会時に近況報告を行い、毎月のお手紙で行事や日頃の様子を伝えている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入居時やその後本人や家族からお話を聞き本人家族の関係性を把握し、良い関係が築いていけるよう支援している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	職員の異動や退職に関しては都度報告はしておらず来所時等にお伝えしている。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしながら対応策を話し合っている。	○	リスクをお伝えした上で抑圧感のない生活ができるよう話し合っている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ケアプランの変更や更新時に要望や意見等をお聞きしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居時に具体的な説明をし理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約書に退去についての具体的な記載があり体制がある。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所の役割や目的等理解していただいている。	/	◎	/	事業所の開設から20年が経過し、地域の清掃に参加協力したり、近隣の散歩時に挨拶を交わしたりするなど、地域との交流をしている。また、数年前に隣地に、同法人の他のグループホームが建設されたことで、職員は、「地域から、十分に認識されている」と感じている。さらに、地域の回覧板も、事業所に回ってくる関係性も築かれているが、コロナ禍が続いたこともあり、交流する機会は減少している。今後管理者は、「地域との交流を、元に戻していきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	お散歩等ですれ違えばあいさつしている。地域清掃等に参加している。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	△	特に増えてはいない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	回覧板等のご来所はある。外ではあいさつを交わしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	見かければあいさつをしたり簡単な会話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	今後行って予定です。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	今後地域の方との交流を増やしていきたいと思います。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	令和5年度第3回の運営推進会議から現地開催を行い、地域の方とご家族の参加があった。	×	/	○	コロナ禍が続き、運営推進会議は書面開催を余儀なくされていたが、今年9月の会議から、集合形式の会議の開催が可能となっている。地域住民や関係機関からの参加は実現され、参加メンバーから意見を聞くことができているものの、家族の参加が1名に留まっている。今後管理者は、家族に対して、継続した情報提供のほか、会議への参加をより求める声かけをしていきたいと考えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	施設での取り組み等の報告を行い議事録を公表している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	今後は現地開催なので、日程等参加しやすい時間帯の配慮をしていく。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所での理念がありそれに基づいた実践ができるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	事業所内に掲示している。	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	毎月内部研修は行っている。今後外部の研修も増やしていきたい。	/	/	/	事業所として、毎月内部研修が行われ、可能な限り参加して職員は知識や技術を学ぶなど、スキルアップに繋げている。また、新入職員には、ベテラン職員に就きながら業務を覚えてもらうほか、一人で業務を行う中でも、先輩から業務内容に関するチェックをしてもらうなど、介護業務に慣れていく体制が整えられている。さらに、ストレスケアに関する研修も実施され、管理者等は目配りをしながら、職員がストレスを溜めないように配慮している。加えて、働き方改革等の一環で、法人本部からの要請もあり、希望休や有給休暇の取得を促すとともに、余分な超過勤務を行わないように指示が出されるなど、働きやすい職場環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実践から職員の力量を把握し助、支援の教育を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員個々の勤務状況を把握し職場環境の整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	今後は同業者との交流の場や連絡会の参加を行っていきたい。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ポジティブに考えていけるよう考え方を伝えている。	◎	△	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	年2回の虐待・身体拘束の研修や身体拘束適正化検討委員会での内容を職員に周知するようにしている。	/	/	○	事業所には、身体拘束適正化委員会が設置され、3か月に1回話し合いをするともに、年2回身体拘束や虐待の防止などの内部研修等を実施し、職員の理解促進に努めている。研修の中では、不適切な言葉かけの内容を取り上げ、大きな声やあからさまな声かけをしないように注意喚起をしている。日々の業務の中で、不適切な言動が見られた場合には、管理者等は指導や注意喚起を行うなど、職員が意識した対応ができるように取り組んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りに参加したりユニット会議を行っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	一人ひとりの利用者の状況を確認し、不適切なケアにならないよう注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修を通して理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	なにかが拘束にあたるのかミーティングやユニット会議で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	弊害の説明と拘束を行わないための具体的な方法やリスクを話し合い理解していただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	インターネット等で制度の違い、利点等を理解し説明や相談できるようにしている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要な場合は各専門機関へ相談、連携できるようにしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急対応マニュアルを作成し研修を行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練は行っていないが実践を通して看護師より指導教育している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットに細かく記入し再発防止について話し合い検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	その都度、変化に合わせて、話し合いを行い取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	スタッフ間で検討、周知を行い家族へ回答し良好な関係づくりに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	日頃から意見や要望等をお聞きするようにしている。	◎		○	事業所では、苦情や相談の受付体制が整備されるとともに、来訪時や電話連絡時などを活用して、家族に職員から利用者の近況を報告し、話しかけて意見や要望を聞くようにしている。利用者には、日々の生活の中で意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。また、管理者とホーム長は、毎月開催するユニット会議のほか、日々の業務の中で職員から意見を聞き、スムーズな業務等が実践できるように心がけ、サービスの質の向上に繋げている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情・相談の窓口が施設だけではなく公的な窓口もお伝えしている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場で働き、職員からの意見や要望を直接聞いている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ユニット会議での話し合いや、個別に話し合いの場を設けている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年に2回、自己評価をし目標を立てている。				職員は、サービス評価の取り組みを理解し、年2回自己評価を実施するとともに、目標を立てて、日々の業務の中で、目標達成に向けて取り組んでいる。また、サービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告し、参加メンバーから意見を聞いている。利用者家族等アンケート結果から、サービス評価の取り組みについて十分な理解を得られていないことが窺えるため、今後は、サービスの評価結果や目標達成計画を分かりやすく取りまとめ、全ての家族に送付をしたり、運営推進会議の参加メンバーや家族に呼びかけて、取り組み状況のモニターを呼びかけたりするなど、より多くの家族からの理解を得られるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題を明確にし、目標を立て達成に向けて取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議やお電話で報告している。	×	△	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で取り組みを報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	非常災害対策計画のマニュアルを作成し周知している。	/	/	/	事業所として、各種マニュアルを整備するとともに、地震や風水害に関する非常災害対策計画や避難確保計画を作成し、事業所内に避難ルートを掲示している。年2回、火災や風水害、昼夜などを想定した避難訓練を実施し、報告書も作成している。また、地域の消防署に連絡を入れているが、コロナ禍が続き、事業所での訓練のみに留まっている。今後は、消防署のほか、地域住民に積極的に声をかけ、合同訓練が実施できることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に1回、風水害の避難訓練を実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	今後は地域の方や消防署を交えて訓練を行っていく。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	今後は地域の方や消防署を交えて訓練を行っていく。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	今後は運営推進会議等で認知症の研修を行ったり事例検討など行っていく。	/	/	/	事業所では、地域住民から認知症高齢者に関する相談を受けたことがあり、快く対応をしている。また、近くに法人内の別のグループホームが建設されたこともあり、地域住民から認知症に関する施設であることを認識されている。また、学生のボランティアなどの受け入れ協力を再開している。コロナ禍が続き、関係機関との協働は十分に行うことができていないものの、法人本部や他の事業所と協力をしながら、市行政や地域包括支援センターなどとの連携を図ることができている。今後は、関係機関と協力をしながら、認知症カフェを開催したり、地域イベントへ参加協力したりしていくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	連絡や相談があればお話を聞いている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	今後は集う場所として解放、活用できるようにしたい。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	コロナが5類になってから1名学生のボランティア実習の受け入れに協力した。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	今後は地域活動の参加に力を入れていきたい。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 25 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870103490
事業所名 (ユニット名)	グループホームすみれの園 梅干
記入者(管理者) 氏名	永見 圭
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々への「その人らしい生活」を大切に、穏やかに安心してあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 「目標」 事業所での取り組みや活動内容をしっかりお伝えできるようにする。 「取り組み」 毎月の家族への手紙の中に、事業所での取り組み、活動内容を記入し活動のわかる写真を送付している。コロナが収束していなかった為、家族と一緒に参加できる行事は行えていなかったが、第三回(9月)の運営推進会議から現地開催で行い家族1名の参加があった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市内中心部から少し離れた郊外の緑豊かな住宅街の中にある事業所は、開設から20年が経過し、数年前に隣地に法人内の他のグループホームが建設されたこともあり、近隣住民から認識されている。建物内は清潔に掃除され、換気も行き届き、不快な臭気や音などは感じられない継続した管理が行われている。日々の生活の中で、利用者から思いや意見などを聞くほか、定期的に家族から意向を確認し、利用者の置かれている状況を把握した上で、3か月に1回程度の介護計画の更新や見直しを行うなど、利用者の視点を考えたこまめな支援が行われている。新たに、歯科衛生士に訪問してもらうようになり、利用者の口腔衛生に取り組む活動が開始されるとともに、職員による手作りの食事が提供され、口から美味しく食べながら、健康で利用者が生活が送れるように取り組んでいる。また、コロナ禍の感染対策が続き、外出や面会などの様々な制限が設けられていたが、5類移行に伴い制限が徐々に緩和され、予防策を講じながら、少しずつ外出支援などを再開するとともに、運営推進会議も書面から、集合形式の会議開催にこぎつけるなど、徐々に外部との関係や繋がりが戻ってきている。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時やケアプラン更新時に本人や家族に聞き取るようにしている。	◎	/	◎	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人とのコミュニケーションのなかで検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族が来所したときや電話連絡した時にお話している。	/	/	/	入居時のほか、3か月に1回の介護計画の更新時には、利用者や家族から、思いや意向などの確認をしている。日々の生活の中でも、利用者から希望や意向を聞くとともに、家族から、病院受診の同行の来訪時のほか、電話連絡時を活用して、意向を聞くようにしている。中には、意思の疎通が難しい利用者もおり、表情等を観察したり、家族から情報を聞いたりするなど、思いを推し量るよう努めている。聞き取った情報は、介護記録のほか、アセスメントシートに情報を記載し、職員間で共有をしている。
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	発言だけでなく表情や態度も記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間で話し合い思い込み決めつけにならないようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	繰り返し質問されたり、訴えられることを家族にお聞きし職員間で共有している。	/	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、アセスメントシートを活用して、これまでの暮らしや習慣などの情報の聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者のほか、居宅介護支援事業所の介護支援専門員等から、情報を聞くこともある。さらに、入居後にも、日々の会話の中で、利用者から情報を聞くことも多く、こまめに介護記録等に記録を残し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	会話やケアの中で一人ひとりの現状を把握している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	普段の様子との違いや変化の把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の視点にたって検討している。	/	/	○	アセスメントシートの情報のほか、事前に関して把握した情報を取りまとめ、担当者会議の中で、チーム体制で検討をしている。また、家族から、受診時の医療的な情報も聞き、検討の材料にも活用している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	会議でより良く生活できるための課題を検討している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族の意向を伺いプランに取り入れている。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族の意見や情報を取り入れて作成している。	◎	/	○	事前に、利用者や家族から意見や意向を聞くほか、医師や看護師等の関係者から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。利用者や家族から出された意向を、職員間で意見を出し合いながら話し合い、計画に反映できるようにしている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思の疎通の困難な方は家族に意向をお聞きしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	コロナ禍であったためできる範囲で行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員間で共有し計画に沿った支援を行っている。	/	/	/	◎ ユニット会議や担当者会議の中で、介護計画の内容を話し合い、職員間で共有するとともに、計画やチェック表はファイルに綴じられ、職員はいつでも確認できるようになっている。計画には、生活ニーズに関する目標毎に、日々の関わり方などを計画するほか、計画に沿ったサービスの実施の有無を、日々〇印を付けてチェックするなどの確認が行われている。また、こまめな支援方法のほか、利用者一人ひとりの言動を記録に残し、他の職員等が記録を見ても、利用者の様子が分かりやすいようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日チェック表に記入し職員間で共有し支援につなげている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月毎の見直しと、状態の変化等があった場合にも見直ししている。	/	/	/	◎ 介護計画は、3か月に1回見直す機会を設けるなど、事業所では短期間で計画を見直す仕組みづくりができています。日々の申し送り時のほか、毎月の職員ミーティングやユニット会議などを活用して、利用者の現状や変化を確認するなどのモニタリングを実施している。また、状態の変化が見られた場合には、その都度計画を見直しを行い、現状に即した介護計画に変更している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	申し送りやミーティングを行い職員間で確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化に応じて本人、家族の意向を確認し新たな計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎日ミーティングで話し合っている。	/	/	/	◎ 毎月職員ミーティングやユニット会議を実施し、利用者の現状確認をするほか、職員間で情報共有や課題などの話し合いをしている。1日3回実施する申し送り時にも、緊急案件を含めて、職員間で話し合う機会を設けている。職員ミーティングなどには、より多くの職員が出動する日に開催するとともに、その日の夜勤職員のほか、参加できない職員には事前に意見を聞くことができている。また、参加していない職員には、会議録を確認してもらうほか、重要事項は口頭で伝えるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	思ったことや気がついたことを率直に話し合えるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	参加できなかった職員も情報を共有できるように記録し、確認後は印鑑を押すようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭での申し送り以外にも重要なことは申し送りノートに記載し出勤時にノートを確認するようにしている。	◎	/	/	○ 朝・昼・夕と1日に3回の申し送りを実施し、口頭での伝達のほか、申し送りノートを活用して、日々の情報伝達が密に行われている。また、出勤時に申し送りノートを確認してもらい、確認後に職員はサインを残すなど、情報の伝達漏れを防ぐようにしている。さらに、申し送りノートには、利用者の情報ほか、薬や治療に関すること、業務連絡などの様々な内容が記載されている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	希望を確認できるかぎり希望に添えるようにしている。	/	/	/	○ 前日に、職員が声をかけ、着たい服を選んでもらい、起床時等に、ほとんどの利用者は自分で着替えることができる。また、利用者が行動をしようとする際には、「トイレですか、部屋ですか」などと職員は確認するとともに、様々な場面で、可能な限り利用者へ具体的に声をかけ、自己決定してもらえるような支援に取り組んでいる。さらに、日々の生活の中で、ゲームやレクリエーション、外気浴などを取り入れながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	どこに行くのか等お声掛けし本人に選んでもらえるようにしている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の意思を確認してから介助に入るようにしている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者の表情に合わせた声掛けや対応をしている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	表情や仕草、本人が疎通ができていたころの性格等を考慮しながら意向に沿った暮らしができるよう支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	内部研修を通して利用者への声のかけ方の大切さを学び実践に活かしている。	◎	○	○	◎ 法人・事業所として、「人権や虐待防止に関する指針」を整備するとともに、年2回内部研修で、人権やプライバシーなどを学び、職員の理解促進に繋げている。また、職員は利用者の気持ちを尊重し、トイレや入浴の支援の際に、他の利用者へ気付かれないように、さりげない声かけをしている。さらに、居室の入室時には、職員はノックをして、利用者へ入室の目的を伝えたとともに、入るようになっている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	プライバシーに配慮し介助を心掛けている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際はノックを行い、声掛けしながら入室している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修を通して学び、理解している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	信頼関係を構築し、お互いに感謝しあえる関係を築けるようにしている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性を把握し、仲の良い利用者同士のほか、姉妹を近くにするなどの配慮の考慮をしている。認知症状の進行や、コミュニケーションの疎通状況への配慮も行われ、言い合いなどのトラブルが発生しないようにしている。また、職員は、利用者や職員がお互いに感謝し合えるような関係づくりに努め、手伝ってもらった場合には、職員から利用者へ感謝の言葉を伝えるとともに、利用者同士で励ましの声かけや、他の利用者の下膳を手助けするなど、支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士のコミュニケーションの大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	お互いが安心できるような席やテーブルの配置を考慮している。また定期的に気分転換も兼ねて席替え等も行っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	仲裁にはいたり、お話を傾聴するようにしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	見学時や入居時に本人、家族からお話を聞いている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	友人や知人に関しては家族から電話でお伝えしていた。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍であり外出はドライブ程度になっている。玄関先や庭先への散歩等はご本人の意思で出てもらっている。	△	△	○	コロナ禍が続き、感染予防の観点から、外出制限が設けられ、ドライブでの外出支援に留まっていたが、天気のいい日には庭先に出て外気浴や散歩をしたり、畑に花や野菜の生育を見に行ったりするなど、少しでも気分転換を図れるよう支援している。2階ユニットにいる利用者の重度化に伴い、外出できる利用者は減ってきている。感染対策が緩和され、徐々に家族との外出のほか、2名程度の利用者と一緒に、買い物に出かけられるようになってきている。今後は、重度な利用者を含めて、玄関先などに出て、外気浴ができる機会を増やしたり、買い物やドライブと一緒に出かけたりするなど、以前のような活動的な生活の機会が、徐々に再開されることを期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ禍以前も外出は職員のみで行っていた。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修等で認知症の理解を深め、個々の状態にあったケアを心掛けている。	/	/	/	日課の中に、体操や風船バレーのほか、ボール投げ、塗り絵、しりとり、歌唱など、数多くのレクリエーションなどの活動の場が設けられるとともに、日常生活の生活リハビリを含め、利用者の心身機能の維持に取り組んでいる。また、トランプやカルタなど、昔から馴染みの遊びを取り入れるなど、利用者が楽しめるような支援も行われている。さらに、花植えや畑の世話などに、利用者の参加を促すこともある。活動時には、利用者自身にできることはしてもらい、職員は見守りや声かけなどの対応をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	手足の運動や口腔体操等を実施している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の能力を把握し掃除や洗濯物のたたみ食器拭きをお願いしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活の中で有する力を見出し、その方に合った役割や出番作りをしている。	/	/	/	敷地内にある畑で、さつまいもなどの野菜の世話や柿などの果実を収穫するのほか、洗濯物たたみや食器拭き、調理の下ごしらえを手伝うなど、職員は一人ひとりの利用者に合わせて、好きなことや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。また、レクリエーションの際に、掛け声や手伝いなどの出番を担う利用者もいる。役割や出番を担ってもらい、利用者に楽しみや張り合いのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	お手伝いやレクリエーションでの役割、庭先でのお花の手入れや野菜の栽培等その方に合った役割ができるように支援している。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	更衣時に声掛けし本人の意向を尊重し選択できるようにしている。				起床時等に、自分で服を選び、着替えや身だしなみを整える利用者もいる。また、職員は利用者に声をかけ、衣服を直したり、くしを渡して鏡の前で、髪などの整えてもらったりするなど、身近なおしゃれや身だしなみなどにも、力を入れた支援にも取り組んでいる。また、入浴後に、化粧水やクリームを塗るなどの配慮も行われている。さらに、食事の際に、食べこぼしの多い利用者には、エプロンを使用して衣服が汚れないようにするほか、口の汚れなどに対して、さりげなく声をかけ、ティッシュを渡すなどの支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪型や服の好みは本人や家族の希望を聞きそれに応じて支援している。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一線に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	希望に添えるようアドバイスしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人の好みや季節に合った服装の選択ができるようにしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしや汚れはさりげなく声掛けするようにしている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人、家族の意向に沿って訪問理美容を活用したりコロナ禍以前は家族の協力のもと馴染みの理美容店に行けるようにしていた。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族がもってこられた服をおすすめしたり散髪の際短く切りすぎないようにお願いしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	楽しみや生きがい、生活リズムを感じる重要なプロセスと理解している。				利用者から好みのメニューを聞くほか、旬の食材を取り入れ、昼と夜、前日との関係性やバランスを考慮しながら、各ユニットで別々の献立を作成している。食材は、職員が週3回ネット注文を行い、届けられた食材を使用して、利用者調理の下ごしらえや食器拭くなどを手伝ってもらいながら、リビングとダイニングを兼ねる場所にあるキッチンで、職員が交替で手作りの食事を提供している。誕生日には、利用者の好みのメニューを提供するとともに、毎月1日には、うなぎを食材として提供し、月替わりを感じてもらおう工夫を行うなど、利用者に喜ばれている。中には、調理師の免許を持つ職員がおり、献立を考える際にアドバイスをもらうほか、職員間で意見を出し合いながら、献立を検討することができている。茶碗と湯のみ、お箸などの食器類は、利用者自身の馴染みの物を持参して使用してもらうほか、滑りにくく加工のされたお盆を活用し、自分のペースで食事を楽しんでもらえるよう工夫をしている。食事の際には、職員は見守りやサポートを優先し、一緒に食事を摂ることまではできていない。利用者は、食事ができあがるまで、匂いや音を感じながら、待ち遠しくなるような雰囲気づくりを行い、心地良く過ごしている。また、重度の利用者は、自分の居室で食事を摂ることもあり、職員は役割分担をしながら対応している。さらに、利用者の状態に合わせて、刻みやミキサー食、お粥など、一人ひとりの食の形態に対応するほか、栄養補助食品も活用している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	リクエストメニューを取り入れ、後かたづけのお手伝いもしていただいている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	自信や達成感を感じていただけるよう後片づけ等お願いしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	会話の中で好きなもの嫌いなものを把握するようにしている。アレルギーは面談時に確認している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節に応じた食材を選び提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの状態に合わせて食事の形態や盛り付けを工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人が持ってこられたものや使いやすいものを提供している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	入居者と一緒に食事は摂っていないが利用者一人ひとりの様子を観察し介助をおこなっている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事の内容をお伝えしながら食事介助を行い、今何を食べているのかわかるようにしている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分量を記録し、一日の摂取量を確認できるようにしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事の時間や形態を個々に合わせ、声のかけ方やタイミングを工夫し摂取していただけるようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員間で話し合いをし栄養の偏りが少ないよう工夫している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材の温度管理に注意し調理器具は毎日消毒を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解し利用者に合わせて必要時には介助を行っている。	/	/	/	週1回、歯科衛生士の来訪があり、指導を受けて、職員は口腔ケアの重要性を学ぶとともに、利用者の口腔内のチェックをしてもらうこともできている。毎食後に、職員は声をかけ、リビングにある洗面台で口腔ケアを実施し、必要に応じて、見守りやサポートをしている。自分で歯磨きをする以外に、利用者の状態に応じて、口腔内をティッシュで拭くほか、うがい薬を活用した口腔ケアを行うなど、歯科衛生士から様々な手法を教えてもらいながら、利用者の口腔内の清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科協会からパンフレットや資料を参考にしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日行っており違和感や痛みがないか等、本人に確認している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	しっかり磨けていないところを介助するようにしている。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	立ち上がり可能な方は、トイレでの排泄が出来るようにしている。	/	/	/	排泄チェック表を活用し、職員は利用者一人ひとりの排泄状況や特徴を把握している。また、チェック表は夜勤者が毎日集計して取りまとめるとともに、日々の排泄時の声かけやトイレ誘導などに活用されるなど、こまめな支援により、布パンツで過ごすことができている利用者もいる。また、多くの利用者は履くタイプの紙パンツを使用して過ごしているが、利用者の状態や排泄状況に応じて、おむつや尿取りパッドなどをうまく組み合わせて使用するなどの対応をしている。さらに、軟便剤や下剤を使用している利用者もいるが便秘対策にも努め、食物繊維を多く摂取したり、多めの水分補給を促したり、運動に参加してもらうなど、利用者の心地良い排便を意識した取り組みも行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解し本人に合わせた排便コントロールを行っている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を活用し一人ひとりの習慣、パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者の状態を確認しそれぞれに合った排泄方法を行っている。	/	◎	/	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	毎日のショートミーティングなどで意見を出し合い改善できるようにしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	行動パターンから排泄の兆候を察知し早めの声かけを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者の状態に合わせてその都度対応している。使用物品についても本人や家族と話し合っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	時間帯に応じて紙パンツ、パッド、オムツを使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食分量や水分量の確認を行い体操等の運動で自然排便ができるよう促している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	時間帯は決めて入浴していただいているが、拒否等があった場合は翌日に入浴してもらっている。	/	◎	/	利用者の思いを尊重しながら、入浴を拒む利用者には、曜日や時間帯を変更するほか、声かけなどの工夫をすることで、週2回利用者は入浴することができている。事業所では、職員が一人体制で、利用者一人の入浴支援を基本としているが、介助を要する利用者にも、一般浴槽の湯船に浸かることができるように、移乗介助などを複数の職員で行うなどの努力も行われている。また、利用者の希望に応じて、湯船に浸かる長さや湯の温度など、可能な範囲で、柔軟に対応をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	その方に合った会話を心掛けリラックスできるようにしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できないところのみ介助するようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	原因を把握し時間をずらしたり翌日にお声掛けしたりしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には本人の様子やバイタル測定を行い入浴後は水分をとっていただくようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送りや介護記録を確認し把握するようにしている。	/	/	/	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、介護記録に記載するほか、申し送りを活用して、職員間で情報を共有している。中には、眠剤などを服用している利用者もいるが、日中に運動の参加を促したり、外気浴を取り入れて、覚醒のリズムが整うようにしたりするなど、極力服薬に頼らず、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。また、夜間に起き、リビングと居室の出入りを繰り返す利用者もいるが、数日続く場合には、健康面を考慮して医師と相談し、眠剤の服用に繋がることもある。さらに、夜間の覚醒時においても、職員は利用者と一緒に過ごすほか、適切な休息の声かけをしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やしたりレクリエーションや体操を行い生活リズムを整えている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜間、眠りづらいことがあれば主治医に相談している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	全室個室で自室で休んでいただけるようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	要望があれば電話でお話しできるようにしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	手紙や電話等の声かけはあまり行っていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	要望があれば家族に連絡を取っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は本人にお渡しし、要望があれば一緒にお読みしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	携帯電話を所持されている利用者は自由に家族と連絡を取り合っている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金の管理は職員がしている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	特に行っていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	小口現金という形でお金をお預かりし、そこから買い物等必要時に使用している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時にご説明している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法の説明と毎月出納の確認もしていたい。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状況や希望に応じて柔軟に対応している。	◎	/	○	コロナ禍が続く、外出や面会などの制限が設けられていたが、利用者や家族から出されて生活上の要望には、可能な範囲で柔軟に対応をしている。徐々に、感染対策も緩和され、家族との外出支援のほか、利用者との買い物支援なども可能となっている。また、利用者や家族の状況に応じて、職員は病院受診の同行支援を行うほか、携帯電話の操作の手伝いなどの対応もしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関に季節のお花を置くようにしている。	◎	○	○	事業所は閑静な住宅街の中に立地し、一般的な住居に近い外観となっている。敷地内には小さな畑があり、さつまいもなどの野菜が植えられている。また、玄関内には3つのイスが置かれ、家族との面会に備えている。さらに、玄関から階段に繋がる場所にはウエルカムボードが置かれ、入りやすい雰囲気を感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない狭風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	リビングには利用者と一緒に作った作品を飾ったり廊下の壁には行事等の写真を貼っている。	○	○	○	日中に、利用者はリビングで、体操やレクリエーションなどを行いながら、和やかに過ごすことができる。昼食後の1時間程度は、自分の居室でゆっくりと過ごす利用者が多いが、その後はリビングに集まり、午後の活動をしている。また、廊下には季節の飾り付けのほか、行事や誕生日などの写真が数多く飾られ、利用者同士や職員と一緒に写真を見ながら、会話がはずむことも多い。さらに、共用空間は清潔に掃除され、換気も行き届き、不快な臭いや音などは感じられない。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、空気清浄機を設置している。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングで過ごされている利用者に調理の音や匂いが感じられるようにしている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者の相性によって席替えを行い落ち着いて過ごしていただいている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	テレビや慣れ親しんだ家具、家族の写真等を飾っている。	◎		○	居室の入り口の横には、名札と顔写真を貼り、利用者が自室を認識できるように工夫している。居室には、エアコンや電動ベッド、クローゼットが備え付けられている。また、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができ、テレビや家族写真、手作りの作品を配置するなど、利用者に合わせて居心地の良い空間となっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者のできること、わかることを職員間で共有し自立した生活が送れるよう支援している。			○	三角の立体的にトイレの表示を行うなど、利用者に分かりやすいように工夫されている。また、リビングと廊下は一直線上に配置され、利用者が居室からリビングまでの経路が分かりやすく、安全な構造となっている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	居室に馴染みの物や趣味などの道具を置きいつでも手にとれるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	利用者の状況で鍵をすることもあるが外に出たいとの要望があれば一緒に外に出るようにしている。	×	◎	○	全ての職員は、鍵をかけることの弊害を十分に理解している。日中に、玄関やユニットの入り口は施錠をしておらず、夜間のみ防犯の観点から施錠を行い、利用者の安全を確保している。コロナ禍が続き、家族等の来訪者はインターホンでの対応が継続していることもあり、利用者家族等アンケートの結果から、鍵をかけないケアの取り組みに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、手紙を送付する際に事務連絡で周知したり、運営推進会議等を活用して、日中に玄関等の鍵をかけていないことをお知らせしたりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	鍵をかけて出られなくすることは拘束になることを理解していただいている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント表や病院受診ノートで確認している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝バイタルチェックを行っている。異常や体調不良本人の訴え等も記録し必要時には主治医に相談している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることやわからないことがあれば、早めに主治医に連絡するようになっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に希望する医療機関を確認し訪問診療を受けられるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族と相談しながら適切な医療を受けられるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院、受診時には前もって本人、家族に伝え合意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時はサマリを作ったり病棟の看護師に直接情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的に連絡し現在の状況を確認している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関の看護師に相談し主治医に伝えてもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間医療機関と連絡が取れる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタル測定や健康観察を行い早期発見につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の説明書をファイルにまとめ職員全員が把握できるようにしている。新しい薬は特に注視し家族や主治医に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	かならず職員2名で確認し誤薬がないようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態の変化を記録し症状によっては早めに主治医に報告している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時から定期的に意向の確認をしている。				事業所では、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」と同意書を整備し、協力医が複数確保され、希望のある場合には看取り介護を実践している。年に1名程度の看取り支援の実績があり、看取り介護を経験している職員も多い。また、重度化や状態の変化が見られた場合には、医師から説明をもらうとともに、家族と職員が話し合い、方針を共有した支援が行われている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	定期的な意向の確認と本人の状態に合わせて主治医を交えたカンファレンスでの意向の確認をしている。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員一人ひとりの力量や思いを把握したうえで支援を検討している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	グループホームのできること、できないことをお伝えし理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度化した場合チームで密に連絡を取ったり話し合いの場を作って検討している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	状態の変化の伝え方を考慮し希望されることへの可能な支援を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内部研修で定期的に学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	予防対策や物品の用意はしてあるが訓練はしていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	情報を確認し対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い、マスク着用など徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族との連携を図り共に本人を支えていく関係を築いている。	/	/	/	以前は、事業所のイベントなどの活動に家族が参加できる機会が設けられていたが、現在は開催を自粛しており、今後管理者は、感染状況を確認しながら、活動の再開を予定している。現在は、家族に手紙に写真を添えて近況を報告するほか、来訪時や電話連絡時を活用して、利用者の情報を伝えている。また、感染対策が緩和され、玄関スペースで家族との対面の面会を可能としている。コロナ禍が続き、家族が来訪する機会は少なかったこともあり、事業所の運営上の出来事のほか、職員の入退職や移動までは十分に報告できていないため、今後は、利用者の生活状況を伝える書類の中で、新入職員を紹介したり、担当職員の異動や退職を個別に報告したりするなど、家族に理解が得られるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	毎月のお手紙で行事等の予定はお伝えしているが一緒に何かを行うということは控えている。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	お手紙以外に電話でも近況の報告をしている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族のこれまでの関係性を大切にしながら説明や電話で説明している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようになっている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	職員の異動や退職に関しては都度報告はしておらず来所時等にお伝えしている。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしながら対応策を話し合っている。	○	リスクをお伝えした上で抑圧感のない生活ができるよう話し合っている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ケアプランの変更や更新時に要望や意見等をお聞きしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居時に具体的な説明をし理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約書に退去についての具体的な記載があり体制がある。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所の役割や目的等理解していただいている。	/	◎	/	事業所の開設から20年が経過し、地域の清掃に参加協力したり、近隣の散歩時に挨拶を交わしたりするなど、地域との交流をしている。また、数年前に隣地に、同法人の他のグループホームが建設されたことで、職員は、「地域から、十分に認識されている」と感じている。さらに、地域の回覧板も、事業所に回ってくる関係性も築かれているが、コロナ禍が続いたこともあり、交流する機会は減少している。今後管理者は、「地域との交流を、元に戻していきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	お散歩等ですれ違えばあいさつしている。地域清掃等に参加している。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	△	特に増えてはいない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	回覧板等のご来所はある。外ではあいさつを交わしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	見かければあいさつをしたり簡単な会話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	今後行って予定です。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	今後地域の方との交流を増やしていきたいと思います。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	令和5年度第3回の運営推進会議から現地開催を行い、地域の方とご家族の参加があった。	×	/	○	コロナ禍が続き、運営推進会議は書面開催を余儀なくされていたが、今年9月の会議から、集合形式の会議の開催が可能となっている。地域住民や関係機関からの参加は実現され、参加メンバーから意見を聞くことができているものの、家族の参加が1名に留まっている。今後管理者は、家族に対して、継続した情報提供のほか、会議への参加をより求める声かけをしていきたいと考えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	施設での取り組み等の報告を行い議事録を公表している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	今後は現地開催なので、日程等参加しやすい時間帯の配慮をしていく。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所での理念がありそれに基づいた実践ができるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	事業所内に掲示している。	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	毎月内部研修は行っている。今後外部の研修も増やしていきたい。	/	/	/	事業所として、毎月内部研修が行われ、可能な限り参加して職員は知識や技術を学ぶなど、スキルアップに繋げている。また、新入職員には、ベテラン職員に就きながら業務を覚えてもらうほか、一人で業務を行う中でも、先輩から業務内容に関するチェックをってもらうなど、介護業務に慣れていく体制が整えられている。さらに、ストレスケアに関する研修も実施され、管理者等は目配りをしながら、職員がストレスを溜めないように配慮している。加えて、働き方改革等の一環で、法人本部からの要請もあり、希望休や有給休暇の取得を促すとともに、余分な超過勤務を行わないように指示が出されるなど、働きやすい職場環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実践から職員の力量を把握し助、支援の教育を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員個々の勤務状況を把握し職場環境の整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	今後は同業者との交流の場や連絡会の参加を行っていきたい。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ポジティブに考えていけるよう考え方を伝えている。	◎	△	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	年2回の虐待・身体拘束の研修や身体拘束適正化検討委員会での内容を職員に周知するようにしている。	/	/	○	事業所には、身体拘束適正化委員会が設置され、3か月に1回話し合いをするともに、年2回身体拘束や虐待の防止などの内部研修等を実施し、職員の理解促進に努めている。研修の中では、不適切な言葉かけの内容を取り上げ、大きな声やあからさまな声かけをしないように注意喚起をしている。日々の業務の中で、不適切な言動が見られた場合には、管理者等は指導や注意喚起を行うなど、職員が意識した対応ができるように取り組んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りに参加したりユニット会議を行っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	一人ひとりの利用者の状況を確認し、不適切なケアにならないよう注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修を通して理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	なにが拘束にあたるのかミーティングやユニット会議で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	弊害の説明と拘束を行わないための具体的な方法やリスクを話し合い理解していただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	インターネット等で制度の違い、利点等を理解し説明や相談できるようにしている。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要な場合は各専門機関へ相談、連携できるようにしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急対応マニュアルを作成し研修を行っている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練は行っていないが実践を通して看護師より指導教育している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットに細かく記入し再発防止について話し合い検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	その都度、変化に合わせて、話し合いを行い取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	スタッフ間で検討、周知を行い家族へ回答し良好な関係づくりに努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	日頃から意見や要望等をお聞きするようにしている。	◎	/	○	事業所では、苦情や相談の受付体制が整備されるとともに、来訪時や電話連絡時などを活用して、家族に職員から利用者の近況を報告し、話しかけて意見や要望を聞くようにしている。利用者には、日々の生活の中で意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。また、管理者とホーム長は、毎月開催するユニット会議のほか、日々の業務の中で職員から意見を聞き、スムーズな業務等が実践できるように心がけ、サービスの質の向上に繋げている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情・相談の窓口が施設だけではなく公的な窓口もお伝えしている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場で働き、職員からの意見や要望を直接聞いている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ユニット会議での話し合いや、個別に話し合いの場を設けている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年に2回、自己評価をし目標を立てている。	/	/	/	職員は、サービス評価の取り組みを理解し、年2回自己評価を実施するとともに、目標を立てて、日々の業務の中で、目標達成に向けて取り組んでいる。また、サービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告し、参加メンバーから意見を聞いている。利用者家族等アンケート結果から、サービス評価の取り組みについて十分な理解を得られていないことが窺えるため、今後は、サービスの評価結果や目標達成計画を分かりやすく取りまとめ、全ての家族に送付をしたり、運営推進会議の参加メンバーや家族に呼びかけて、取り組み状況のモニターを呼びかけたりするなど、より多くの家族からの理解を得られるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題を明確にし、目標を立て達成に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議やお電話で報告している。	×	△	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で取り組みを報告している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	非常災害対策計画のマニュアルを作成し周知している。	/	/	/	事業所として、各種マニュアルを整備するとともに、地震や風水害に関する非常災害対策計画や避難確保計画を作成し、事業所内に避難ルートを掲示している。年2回、火災や風水害、昼夜などを想定した避難訓練を実施し、報告書も作成している。また、地域の消防署に連絡を入れているが、コロナ禍が続き、事業所での訓練のみに留まっている。今後は、消防署のほか、地域住民に積極的に声をかけ、合同訓練が実施できることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に1回、風水害の避難訓練を実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	今後は地域の方や消防署を交えて訓練を行っていく。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	今後は地域の方や消防署を交えて訓練を行っていく。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	今後は運営推進会議等で認知症の研修を行ったり事例検討など行っていく。	/	/	/	事業所では、地域住民から認知症高齢者に関する相談を受けたことがあり、快く対応をしている。また、近くに法人内の別のグループホームが建設されたこともあり、地域住民から認知症に関する施設であることを認識されている。また、学生のボランティアなどの受け入れ協力を再開している。コロナ禍が続き、関係機関との協働は十分に行うことができていないものの、法人本部や他の事業所と協力をしながら、市行政や地域包括支援センターなどとの連携を図ることができている。今後は、関係機関と協力をしながら、認知症カフェを開催したり、地域イベントへ参加協力したりしていくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	連絡や相談があればお話を聞いている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	今後は集う場所として解放、活用できるようにしたい。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	コロナが5類になってから1名学生のボランティア実習の受け入れに協力した。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	今後は地域活動の参加に力を入れていきたい。	/	/	○	